

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0190501817), 法人名 (株式会社 風和里), 事業所名 (グループホームふわり藻岩下), 所在地 (札幌市南区藻岩下4丁目2番7号), 自己評価作成日 (令和2年11月24日), 評価結果市町村受理日 (令和3年1月4日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に恵まれた環境に立地しており、四季折々の変化を肌で感じられることができる。鹿やキツネなどの動物を見ることもあり、共存していると感じるところもあり、昔をよみがらせる環境にあると考えます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190501817-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年12月10日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は札幌市の中心的なシンボルである藻岩山の山麓に位置し、昔から市民に親しまれた市民スキー場も身近な距離で、周囲は戸建住宅が並び山裾らしく豊かな自然が広がり、また眼下には遠くは暑寒別岳から市内の札幌ドームまで視野に入るなど石狩平野が一望できて、静かに生活する環境には最適な環境下に立地している。建物は地域に溶け込んだロッジ風の2階建て、1階と2階にそれぞれ1ユニットが入り合計で18人の高齢者が生活を共にしている。当事業所の優れている点は、開設が2017年と間もなく職員も落ち着かない状況で、サービスの本質を意識した取り組み、利用者個別に特化したお便りの毎月発行を取り上げたい。サービスは日々の支援の積み重ねの結果であり、それら利用者の方々の様子をお便りとして家族宅に毎月定期的に写真入りで克明に伝える事は手間暇のかかる作業と思われるが、それを開設当初から意識し実行している意欲の高さを大いに評価したい。また介護の実践でも、看取り介護まで射程しながら取り組んでおり、まだ現場で看取った経緯はないが希望があれば最後まで本人に添い遂げる意向であり、どこまでも本人本位を基本とする当事業所に今後も注目したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff/user interactions.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をもとにサービスの提供に努めている。	介護理念を系列事業所との共通理念として掲げ、パンフレットや各ユニットに掲示し、職員は日々唱和し実践に活かしている。また研修や会議では、理念が日々の介護に反映されているか確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今年は新型コロナの影響もあり、行事が中止になり交流が少なかった。ハロウィンでは感染に注意し仮装をして子供たちと交流をもてた。	開設後4年を経過し、徐々に認知症の共同住居である旨は知られてきており、町内会での行事や近所の散歩時等で積極的に挨拶を交わし、親交を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流が少なくなったこともあり、あまり実践できていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議も感染の影響を鑑み中止していた。	2ヵ月毎に開催される運営推進会議は、包括支援センター、町内会役員、家族に加えて、多くの参加を得て、多様な話題で双方向の会議となっている。事故やヒヤリハットの分析、避難訓練、介護方法など話し合い、また議事録は利用者宅に配布し、サービスの向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から積極的には連絡はとれていないが、生活保護の方もいらっしゃるため、福祉課と連携を図っている。	市や区での各種会合、研修会や説明会に積極的に参加し、行政とはなんでも相談できる関係を日頃から構築している。また保護課との連携も深めており、相互の協力関係が維持されている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に向けた取り組みとして委員会を開き、全体研修を行っている。	「身体拘束適正化委員会」を3ヶ月毎に開催し、また拘束に関する職員アンケートも実施し、日々の介護を検証している。職員への周知徹底は、会議や申し送り時に行い、事業所一体となって拘束や抑制と無縁な介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、スピーチロックや虐待とはの研修を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度について学ぶ機会を持っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、質問事項がないか確認を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、反映できていない。	サービスは伝える事から始まるため、「ふわり藻岩下便り」を利用者一人ひとりに特化した内容で毎月家族あてに送っている。その結果の意見や苦情等は意見箱や来訪時の聞き取りで聴取し、意見や要望をサービスに結び付けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや会議等の集まりで意見を出し合っている。	会議は本社の統括部長も参加する機会があり、職員の意見や要望、情報など、直に聴き取り運営に活かしている。統括部長による個人面談も年に2回用意され、職員の課題や目標を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系や賞与等の説明を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修機会を設け、資格取得に向けた勤務に考慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナの影響で実施できず。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困りごとや不安ごとは丁寧に傾聴し、ご本人に安心して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新型コロナの影響で面会ができず、電話や手紙等で対応し関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテーク時に聞き取り調査を行い、スムーズな入居に向けたサービスの検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や掃除等の簡単なことでもできることを意識して取り組んでいる。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	新型コロナの影響で面会がなかなかできず、ご家族の名前や思い出当を交えながらコミュニケーションをとっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの家具や習慣を継続できるよう支援している。	顔馴染みの人の訪問は、ゆっくり過ごせるよう配慮し、墓参りや初詣といった場には家族と協力しあい支援しており、昔馴染みの関係性が閉ざされない、途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士コミュニケーションがとれるよう場所を移動したり、食卓の座る位置を状況に応じて変更している。一緒に手伝いが行える環境を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居される時も、いつでも立ち寄れる雰囲気つくりと退居後もご家族が来訪されることもあり、コミュニケーションをとっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスを通して検討している。	毎日の生活を支えながら、嫌な事や好きな事等々を把握し、職員間で共有、本人の意向に沿った暮らしを支援している。困難な場合でも仕草や目線、顔や全体の表現等を頼りに本人本位になるよう検討している。	本人が最後の時間をどこで過ごしたいのか等の最終段階に関して、具体的な思いを定期的に聞き取り・記録し、より本人本位の介護となるように期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活歴や生活環境を把握しサービスに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者同士で交流を深めたり、職員とコミュニケーションをとりながら、一緒に調理・掃除・洗濯を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者がより良く暮らすため、体調の維持ができるように、介護計画を作成し、それに基づいて支援している。	担当がモニタリングを含め課題等をカンファレンスで確認し介護計画を作成している。介護計画の進捗状況が日々把握できる様、介護目標を日誌に記載するなど検討を重ねている。また病変等が生じた場合は、現状に即して検討し、実情にあった介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、全職員が細かく何があったのか等を記入・報告を行っている。申し送りや連絡ノートを活用し全職員が共通できるように徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の状況の変化やその時々ニーズに対応して試行錯誤しサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナの影響で今年は実施できていないが、回覧板や近所の方の話を聞いて地域参加を行っていた。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医・事業所と連携を図り、細かな情報提供を行い素早く対応できている。	かかりつけ医は本人と家族の要望を優先して継続しているが、看取り介護の関係もあり、ほぼ協力医の往診を利用している。往診時は、職員が立ち会って明確な情報を伝え、医療面の安全を確保している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護があり、看護師に体調の変化など相談・報告し指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、病院と事業所、往診医と病院、往診医と事業所等、情報提供を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の変化もあり、本人・ご家族の意向を伺っている。	看取り介護について、契約時に書面で説明し同意を得ている。看取りについて積極的姿勢であるが、リスクも含め懇切丁寧に説明し、また状況の変化にも対応しており、本人や家族の意向を優先して支援に取り組んでいる。開設以降に看取り介護の実績はないが、現状はほぼ全員が当所での看取りを希望している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	フェイスシートや救急時の対応マニュアルを作成し実践している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練等を行い、入居者とともに訓練している。また、全職員が同様に行動できるように行っている。	災害訓練は年に2回、夜間想定も含め実施している。冬季を考慮した備蓄品等も整備し、不意の災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の羞恥心を刺激しないよう声掛け対応を行っている。	接遇は介護の要であり、プライバシーの確保や人格の尊重を旨として介護に臨み、研修や会議、個別な介護でも礼儀を忘れないようにと話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に選択できるように本人に決定していただけるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースにあわせて介助するよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	サロンを開き、お化粧品やマニキュアを施したり、訪問美容を呼び、好きな髪形やカラーにできる環境を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理したり、調理風景を見学したり、盛りつけたり一緒に作業している。下膳や食器拭きやテーブル拭き等も一緒に行っている。	食事は一人ひとりの特性、量や好みに注意し献立をたて、後片付け等のお手伝いもお願いしながら、また職員も同席同食で、楽しい食卓になるよう食事支援に取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調の変化によって食事量を調整したり、食べやすいように工夫している。ゼリー形態やいろいろな種類の飲料水で水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに合った口腔ケアを行っている。歯科往診や歯科衛生士の指導を本人と一緒に受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、その方にあった時間で声掛けを行っている。成功体験を増やしている。	トイレでの排泄を基本とし、排泄サインの共有によるトイレ誘導、時間による誘導等、その利用者個人に合わせた方法で、排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘症や便秘気味の方に、水分や乳製品を摂って頂いたり、毎日体操を行い体を動かしていただいている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時は本人にも確認を行い入浴していただいている。入浴時ではリラックスしていただけるように入浴剤を入れたりコミュニケーションをとっている。	毎日お湯を入れて準備し、全員が週に2回以上入浴できる事を基本として、入浴支援をおこなっている。拒否者には無理強いする事なく、時間や環境、対応者等を変えながら、楽しいお風呂になるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠たくなったときに入床して頂いている。日中、傾眠が強くみられる場合は、適切な臥床時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報を確認し理解に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者が参加したくなるようなイベントを企画し楽しんでいただいている。お手伝い等で役割や責任をもって入居者が取り組まれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナの影響で外出はほとんどできませんが、9月末にブドウ狩りに行き楽しい時間を過ごした。また、近隣を散策している。	季節のドライブの他に散歩を日課として出歩くように努め、ご近所のお庭を拝見したり、買い物に出かけたり、体調や天候を考慮・相談しながら、また敷地内のテラスも活用し、閉じこもらない介護に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新型コロナの影響で買い物などの外出することができず、お金を使う機会が作れていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話所持している方は自由に電話されている。希望があれば電話をかけられるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感が感じられる装飾など飾りつけを一緒に行っている。	藻岩山の山裾に建つ事業所なので、窓からの見晴らしは良く、札幌の街が一望できる。リビングの天井は高く、窓も大きく、全体的に明るく開放感のある空間になっている。季節の飾りつけや利用者の作品等が掲示され、温かで居心地良く過ごせる居場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファだけでなく絨毯を敷き、座って過ごせる環境を作っている。また、玄関前や非常口に一人掛けの椅子を置き、共同の空間で一人で過ごせる場所を提供している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇を置いて頂き、居心地よく過ごせるよう配慮している。	居室にはクローゼットとベットが用意されている。利用者は家族と相談の上、家具や生活用品を持ち込み、また大切な家族の写真や仏壇を傍に置いて、安らげる空間を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各自のできること・理解されていることを把握して介助したり、自ら行っていただくよう促している。		